

# 【金沢八景歴史ハイキング】

2016年9月25日 (日)

## ■往路

乗車・乗換駅	発時刻	着時刻	
草加	7:22	7:33	247円
北千住	7:40	8:10	302円
品川	8:18	8:52	483円
金沢文庫	-	1:30	1032円

## ■コースタイム(見学時間を含む)

チェックポイント	時刻	所要時間
① 金沢文庫	9:10	-
② 称名寺赤門	9:40	0:30
③ 県立金沢文庫	10:20	0:40
④ 八角堂広場	11:20	1:00
⑤ 海の公園	12:05	0:45
昼食	13:25	1:20
⑥ 野島公園展望	14:35	1:10
⑦ 夕照橋	14:55	0:20
⑧ 金沢八景駅	15:15	0:20
所要時間合計		6:05

## ■復路

乗車・乗換駅	発時刻	着時刻	
金沢八景	16:16	17:18	832円
押上	17:25	17:45	308円
草加駅	-	1:29	1140円

交通費 : 2,172円

歩程 : 約6km

平坦街歩き

参加者: 6名

望月・岩間・中島・一ノ瀬・秋山  
小野寺

## 金沢文庫

金沢流北条氏が領し、のちに館や菩提寺である称名寺を建立して本拠地として開発し、家名の由来となった地である武蔵国久良岐郡六浦荘金沢郷に所在したことが名称の由来である。成立時期は定かではないが、実時が晩年に金沢館で過ごした建治元年(1275年)ごろではないかと言われる。北条実時は明経道の清原氏に漢籍訓読を学ぶ一方で嫡系の北条政村の影響で王朝文化にも親しんでいた文化人で、実時は鎌倉を中心に金沢家に必要な典籍や記録文書を集め、収集した和漢の書を保管する書庫を金沢郷に創設。文庫は実時の蔵書を母体に拡充され、金沢貞顕が六波羅探題に任じられ京都へ赴任すると、公家社会と接する必要もあり収集する文献の分野も広がり、貞顕は自らも写本を作成し「善本」の収集に努めた。また、貞顕は菩提寺の称名寺を修造しているが、貞顕が文庫の荒廃を嘆いていたとされる文書が残り、また貞時を金沢文庫創建者とする文書も見られることから、貞顕が文庫の再建を行っている可能性も指摘される。金沢氏を含め北条氏の滅亡後は、称名寺が管理を引き継いだ。当時の建築物は現存せず、発掘調査と当時の記録からその位置が推定されている。室町時代には上杉憲実が再興している。

## 神奈川県立金沢文庫

明治30年(1897年)に伊藤博文らによって称名寺大宝院跡に再建された金沢文庫は関東大震災で失われ、昭和5年(1930年)8月9日に図書館令に基づき神奈川県初の運営する最初の県立図書館として復興した。昭和8年(1933年)に図書館令が改正され、公立図書館のうち1館を中央図書館に指定することになると、唯一の神奈川県立の図書館であった金沢文庫が中央図書館の役割を果たすことになった。中央図書館時代の金沢文庫は、郷土資料として金沢八景や神奈川県下の名所絵、県下でおこった歴史絵、横浜絵などの浮世絵を収集し、現在も200点余り所蔵している。昭和26年(1951年)に博物館法が公布施行され、昭和29年(1954年)に神奈川県立図書館が設けられると、金沢文庫は図書館から博物館に変わることになり、昭和30年(1955年)に登録博物館となった。平成2年(1990年)に新築され、現在は鎌倉時代を中心とした所蔵品を保管し、展示公開する歴史博物館となっている。

金沢山(きんたくさん) 称名寺 (真言律宗)

